



2000年2月20日

発行/(社)三原青年会議所
編集/広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
(三原商工会議所内)
TEL(0848)63-3515
FAX(0848)62-1141
インターネットアドレス
<http://www.tako.ne.jp/~mjc/>
Eメールアドレスmjc@tako.ne.jp

2000年三原JCスローガン



Keep it straight

—未来へ向かってゆっくと歩き出そう—

今月号の記事

- 1面 } 地域主権対談
- 2面 }
- 3面 コラボロード街頭アンケート
- 4面 新入会員募集/未来クル通信/
ちょっと一言/やっさ祭り/他

みたか
きいたか



最近、財政の危機的状況がテレビ・新聞で報じられている。国と地方自治体の財政赤字を合計すると600兆円を超えるという深刻な局面に至っており、行政の効率化は待たないで、という報道である。600兆円の借金というと「ピン」とこないが、日本の国民、子どもから大人まで全員に換算すると、一人当たり約500万円、一般的な4人家族だと、一世帯あたり2000万円の借金となる。これほどの借金をどの様に返済すればよいか、また、このままだとどういう社会になるのか想像を絶する。

では、どうすれば行政のコスト削減・効率化が図れるのだろうか。「自助・互助・公助」と言う言葉がある。「自助」とは、自ら出来ることは他人に頼まず自分で行うこと。「互助」とは、一人ひとりで困難でも近隣社会で助け合って解決できることはその中で行うこと。「公助」とはそれでも解決できない時のみ行政など公的機関が助成すること。この言葉が先の問いの答えを出すための行動原理となり「自立した健全な地域」の基になるのではないだろうか。何もかも行政まかせ、行政責任としていては、いくらお金があっても足りない。住民自らが行動し、その責任を全うする姿勢がないまちは「自己破産」を待つしかないであろう。



三原JC 理事長 VS 本郷町長

内海勝議 惠木 慧

地方分権整備法の成立に伴い、国、県では地域再編に向けて具体的な動きを始め、私たちの住む地域も否応なくこの波に飲み込まれようとしています。(社)三原青年会議所では、この地域再編を住民主導で行わなければならないと考え、昨年、合併都市モデルとして「小早川市」を提唱いたしました。

そこで今回、(社)三原青年会議所内海勝議理事長は、私たちの住む三原市と生活圏を同じくする隣のまち「本郷町」惠木慧町長をお招きし、今後の広域行政、広域まちづくり等に関し、対談させていただきました。

元気です! 元本郷町

理事長 惠木町長におかれましては、常日頃より本郷町の町政にご尽力され、大変なご苦労があるとは思いますが、現在の本郷町、そしてこれからの本郷町をどのように見据えておられるのですか。

惠木町長 現在、本郷町は「空港とインター・史跡のまち本郷」をキャッチフレーズに、町政に取り組んでおります。

現在、広島空港滑走路3000m化に向けて着々と準備を進めておりますが、広島県内で唯一国際空港がある町としてその特性を十分に発揮し、今後「心のかよった国際交流のまち」にしたいと考えております。

それに加えて、昨年秋、本郷町に温泉ができました。今後これを利用する施設についても、現在関係諸機関と協議・検討中ですので、名所・旧跡ともタイアップして「期待が持てるまち=本郷町」と言えるのではないのでしょうか。

期待します! 三原・瀬戸田架橋

理事長 そうですね。広島県北部から空港に繋がるフルーツロ

ードの工事も着々と進められておりますし、広島空港が広島県全体の空の拠点となることを我々も期待しております。

惠木町長 フルーツロード・フライトロードと併せて、早期実現していただきたいのが、「瀬戸田町高根島から三原市にまたがる橋」の実現なのです。おっしゃられるように、広島空港が広島県全体、そして四国方面からも利用できるような、中四国の玄関口にならなければならないと考えております。

理事長 私たち三原JCは、その橋を「三原・瀬戸田架橋」と呼んでおりますが、広島空港の拠点性を高め、地域間の交流と沿岸地域の開発を促進するものと考えております。地域活性化に向けて私たち(社)三原青年会議所もこの架橋の早期実現に向け、積極的に活動してまいります。

進む! 地方分権

理事長 現在、国や県も積極的に地方分権に取り組んでおりますが、本郷町としての取り組みはいかがですか。

惠木町長 地域主権時代のまちづくりの主役は、市町村だと思えます。各まち各自が、どれだけ「キラリ」と

Step Up to 小早川市

この連載では私たちのまちの地域再編について、市民の皆さんと共に考えてゆきたいと思っております。ご意見をお待ちしております。

